

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070300601		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホーム サンシャインあづま		
所在地	群馬県桐生市市川内町1丁目322-1		
自己評価作成日	令和2年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然やその季節の歌を歌いながら散歩を行い、四季折々の風景や風の匂いを感じながら気分転換と体内リズムの調整を図っている。 ・季節の食材を取り入れた献立を利用者様と一緒に考え、作ることで、共同生活を助け合い、出来る喜びを感じて頂いている。 ・施設周辺を散歩し、地域の方と挨拶を交わす事で、常に地域の一員であるという事を周知して頂けるように心掛けている。 ・口腔指導を受け、利用者様の食べる喜びと健康管理を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念は、平成16年より分かりやすい理念に再作成され、日々介護実践に活かされている。生活の張りあいや楽しみがある暮らしを提供するため、週2回のランチや誕生会・行事食は利用者の希望を取り入れた献立とし、一緒に作っている。また、毎朝の散歩を通じて外気に触れ四季を感じ、体内リズムを調整したり、地域住民との交流が行われたりしている。地域との長年における良好な環境作りの結果、災害時の地区の緊急避難場所として地域の安全を担保できるように位置づけられている。排泄は、夜間帯のみおむつ対応かどうかを判断する場合、利用者の状況にあわせた尿取りバットの種類・枚数・交換頻度やトイレ誘導の声掛けを増やしたりして、その人にとって負担なく快適な排泄に向けて検討が行われている。法人の施設名は、法人として大切にしている理念や町名を付けている。(安心館、信頼館、かがやき、おもしろ)</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った対応を心掛け、問題点等はミーティング時に話し合い、理念と個々のケアが結び付けられるよう日々の支援、実践に努めている。	利用者との関係性を大切にして、日々の暮らしに張りが出るように役割をもってもらうことをケアの原点であると考え、理念の「信頼と安心」を軸に、振り返りながら、共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、屋外に出る際はマスクを着用している。花火大会等の行事は開催出来なかったが、散歩では必ず近隣住民と挨拶を交わしている。	毎日の散歩を通じ、地域住民から野菜や花を貰うこともある。以前は、地区の子供が集えるように花火大会や納涼祭を実施していた。また、事業所内に認知症カフェを開催して交流を深めていたが、コロナ禍のため、事業所内のみで実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為、行政より認知症カフェの開催は中止となってしまったが、認知症サポーターの方が週数回ボランティアに来設して下さっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染流行により、行政より運営推進会議の中止の指示があった為、開催には至らなかったが、地域役員の方と訪問や書面にて連絡をし、報告や意見交換を行った。	ヒヤリハットや事業所の活動報告・カフェサンクスの内容の報告書を作成し、委員へ意見を伺う意味も含めて直接届けている。家族には電話にて意見を求めて、報告書の内容である実情を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告は市の窓口に出向いて報告をしている。運営推進会議が開催出来なかったが、書面にて市の担当者や包括支援センターへの報告、相談を行っている。	転倒などの事故報告書を持参した時に意見をいただいたり、苦情対応について相談したりしている。コロナ禍での面会については家族の要望があるので、市に意見を聞き、対応を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束・虐待防止の会議や研修を行っている。職員には自分の言動がそれにあっていないかを考えるようにミーティングで話し合っている。	研修に参加した職員の資料をもとに、半年ごとに職場内研修を行っている。また、研修担当職員が、この言動は拘束にあたるかどうかの問題を○×形式で作成して、職員で拘束か否かを話し合い、気づける機会としている。なお、日頃より、スピーチロックの軽減にも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングでの話し合いの他、研修や勉強会に参加し、虐待にあたる行為について学んでいる。管理者は常に職員全体に指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を利用されている方はいないが、成年後見制度等の講習のお知らせを貼り出し、誰でも参加出来るように呼び掛けている。 必要な利用者様・ご家族には制度を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設を見学して頂き、施設の概要を説明して十分に理解して頂いてから契約を行っている。契約時にも再度説明を行う事で、安心して利用して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染の流行により、運営推進会議が中止となってしまったが、意見場の設置や連絡等で、ご家族からの意見を伺い、その都度話し合いや申し送りノートで職員全体に意見が伝わるようにしている。	ホーム便りの担当職員を月単位で決めて、日頃の様子を発信している。面会時以外は電話にて家族の要望を聞くように心掛け、要望に応じて会議で共有した後、反映できるように検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見を取り上げる機会を設けている他、法人の労働組合で代表者が参加し、職員の意見を伝えている。	月1回の会議は、健康診断等伝達事項の他、話し合い、電気代節約のため、床暖房の設定時間を決めた事案がある。法人内にある労働組合では、職員からリフレッシュ休暇増の意見を集約して、本部に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回のチャレンジシートで職場の意向調査を行い、目標を持って働ける職場環境作りに努めている。 また、ストレスチェックも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着で研修委員会を設置し、研修に参加する機会を設けている。感染症対策により、人数を減らして開催している。 実務者研修は、今年度も法人の中で開催され、レベルアップや資格取得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染対策により、今年度は各研修が開催されなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後もご本人やご家族の要望に沿える様、環境整備及び信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困り事や要望を詳しく聞き、信頼と安心を提供出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に利用方法を見極め、他の介護サービスについても説明し、納得して頂けるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活機能に応じて掃除や洗濯、調理を一緒に行ないながら、共同生活の中で支え合っていける環境に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との時間が持てるように、外出や通院等に出掛ける機会を支援し、共に本人を支える関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承を得て、友人と会う機会や馴染みの店に出掛ける機会を続けられるように支援していたが、コロナ禍の為、工夫して面会をして頂いている。	手紙が届いた際は、本人からお礼の電話をする支援をしたり、毎年、年賀状を利用者と一緒に作成し、家族や友人に送付したりしている。以前は、馴染みのスーパーに買い物に行くなどしていたが、コロナ禍なので、月に1回移動販売車で馴染みのものを買えるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と交流が出来るように座席等に配慮する他、日常生活の中で他者と円満な関わりを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、職員に会いに来て下さるご家族がいる。その際に、ご家族の体調や困り事が無いかなどを伺い、良好な関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が生活の色々な場面で呟く言葉や会話を聞き、思いや意向を把握している。	各利用者に担当職員を決めており、主な仕事は思いの把握としている。料理長をしていた方には、馴染む場でのお手伝いであるお皿洗いをお願いするなど、思いを反映できるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの今までの生活状況や思いを聞き、本人の身体状況を考慮して出来る限りその人らしさを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状況の中でご本人のペースに合わせて過ごして頂けるように支援している。申し送りや申し送りノートで状態変化の情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医及び各部署と連携を図りながら、状態にあった支援が出来るようにカンファレンスを行い、介護計画を作成している。また、モニタリングを行い、その都度計画を作成している。	アセスメント後、介護計画の要望を聞いた上で日課計画表を作成し、生活ニーズに基づいた短期目標をもとにケアに取り組んでいる。毎月のモニタリングで状況確認を行い、職員の意見交換を参考に介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙と介護計画を同じファイルに入れ、記録時には介護計画を確認している。状態の変化も記録に残し、その後状態に変化が見られる場合にはカンファレンスを行い、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の病院や施設利用については、柔軟な対応を行っている。ご家族の希望があれば、かかりつけ医の受診や往診を依頼して、可能な限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染流行により、自衛防災訓練及び災害訓練は施設内のみで実施。 育成会の古紙回収への参加はあったが、町内の行事への参加は中止となった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様とご家族の希望するかかりつけ医に受診出来るように支援している。 また、本人の様子を主治医へ報告し、早急な対応を行っている。	法人の診療所をかかりつけ医としている方は、2ヶ月毎に通院支援を実施している。それ以外の医療機関を受診している利用者や専門医への受診に関しては家族対応としているが、送迎が困難な場合等には送迎支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結んでおり、毎週定期的に訪問してもらっている。 急変時には昼夜を問わず訪問してもらい、適切な受診や看護を受けられるように連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、ご家族や関係機関と連絡を取り合い、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの意向をご家族から聞いています。身体機能の低下等の経過において、都度ご家族と主治医、訪問看護と連携を取り、情報交換を行いながら支援している。 職員は、ターミナルケアの勉強もしている。	終末期の希望は、家族と相談して決めるようにしており、家族からかかりつけ医の判断をもとめる意見が多く、医師から状態説明を受けながら、意向を確認している。心肺停止状態となった場合の対応確認書を、市医師会の指導に基づいて半年～1年後に家族へ行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがあり、AEDを設置している。コロナ禍以前に消防署が行う救急救命講習は、全職員が受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設独自のマニュアル及び地域の防災マップを掲示し、職員に周知している。 当施設が緊急避難場所であるという事は地域役員を通じて地域住民に周知されている。 災害の研修も受けいている。	事業所は災害時の緊急避難場所としての役割を担い、段ボールベット・簡易トイレ・パーテーション等が市から配布されている。地域防災協力体制が構築されており、町内会用の土砂災害ハザードマップを事務所に掲示し、職員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を尊重し、失礼の無い言葉掛けや対応を心掛けている。また、管理者が声掛け等の指導を行っている。	言葉遣いは、上から目線ではなく同じ目線で話すように心がけ、不適切な言葉かけは利用者がどう思ったり感じたりするのか、気づいた時に一緒に考えるように指導している。トイレ利用時、利用者は自分で施錠しているが、困難な場合には職員が入口に立ってプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の思いを汲み取り、出来る限り実現出来るように寄り添い、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や生活リズムに合わせて過ごせるように、都度業務を見直している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来るように衣替え等、ご家族にご協力頂きながら支援している。 希望に合わせて訪問理美容を利用し、好みの髪型等を伺っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立を利用者様と一緒に考えている。お盆や彼岸等の季節の風習を大切にしている。 衛生的に安全な季節を配慮して刺身等の生魚を提供している。	3食とも法人内の施設で調理したものを提供しているが、週2回の昼食や誕生会・行事食は利用者の希望等を取り入れた献立としている。10月のサンマ会では季節の風習を取り入れ、炭火でサンマを焼き、おいなりさんやけんちん汁と一緒に作って食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の身体状況に合わせた食事形態で提供出来るように職員間で話しあっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による口腔指導を受け、治療が必要な場合はご本人・ご家族と話し合い、希望があれば歯科受診を行っている。 毎食後に個人の状態に合った仕上げ磨きの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の訴え動作の把握している。なるべくトイレで排泄出来るように、訴えが少ない利用者様には排泄パターンをチェックして、失禁する前にトイレに行けるよう記録をもとに声を掛けている。	失禁防止も考え、利用者の排泄リズムを把握して時間で声かけしている。誘導時、トイレという言葉は使わず違う言葉に置き換えている。また、夜間のみオムツ対応にするかどうかを判断する場合は声かけの回数や代替え手段を職員間で話し合う機会を設け、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操、レクリエーションで体を動かし、また、水分を十分に取るように支援している。 また、医師の指示のもとに下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	冬至のゆず湯をはじめ、しょうぶ湯やリンゴ湯等、季節感のある入浴を提供している。ユニットごとに入浴しているが、個々の対応を心掛けている為、希望があればすきな曜日に入浴出来る支援を行っている。	週2回午後の時間帯に、各利用者の希望に基づいて入浴していただいております。毎日の入浴希望にも応じています。一般浴が困難な利用者には、隣接の施設の機械浴を利用し、個々に添った支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に良眠出来るように、日中は散歩やレクリエーション等の活動を増やしている。 また、安心して眠れるように、ご本人が自宅で使用していた布団等の持ち込みも対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様一人一人に担当があり、薬の管理を行っている。処方の変更は、申し送りノートを活用して全員が把握出来るように申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴と今の能力に合わせて、針仕事や調理、植木の剪定等、得意な事が行えるような環境を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花見やドライブに出掛けている。 新型コロナウイルス感染防止の為、例年参加している地域の行事は開催されなかった。	季節ごとの花見や気分転換や外気浴も兼ねてドライブをしている。また、日光浴や体内リズムの調整も兼ね、日課の朝の散歩を通じて、日常的に外出できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承を得てお金を所持している方もいる。移動販売やヤクルトの訪問販売を利用している。 管理が難しい方には立替で購入する等して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年ご家族やご友人に年賀状を出せるように、職員と一緒に書くようにしている。 個人の携帯電話や施設の電話にて、自由にご家族と連絡出来る環境を提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新型コロナウイルス感染防止対策の為、常時換気を行っている。 天窓からの自然光を取り入れ、明るく落ち着いた空間となっている。 利用者様と一緒に施設の飾りや写真を掲示している。	時季の飾りつけと一緒に創作し、居室入口や共用空間に掲示している。ソファやテーブルの席は、利用者の座りたい・座りやすい場所に、利用者の自由に過ごせるようにしている。空調は、職員が管理し、居心地のよいように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルやソファ、玄関のベンチ等、好きな場所で自由に過ごせる環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごしていた時のように、馴染みのある家具や日用品や仏壇を持ち込んで生活して頂いている。プライバシーにも配慮し、落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	ベット・寝具類は事業所対応で、それ以外は各利用者の必要に応じて、持ち込んでもらっている。室温管理は職員が行い、エアコンの風が直接当たらないように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に表札を付けて自分の部屋が分かる工夫をしている。車椅子の方も一人で動作が出来るように、トイレや洗面台の高さを低く設置している。 建物はバリアフリーで、各箇所に手すりが設置されている。		